

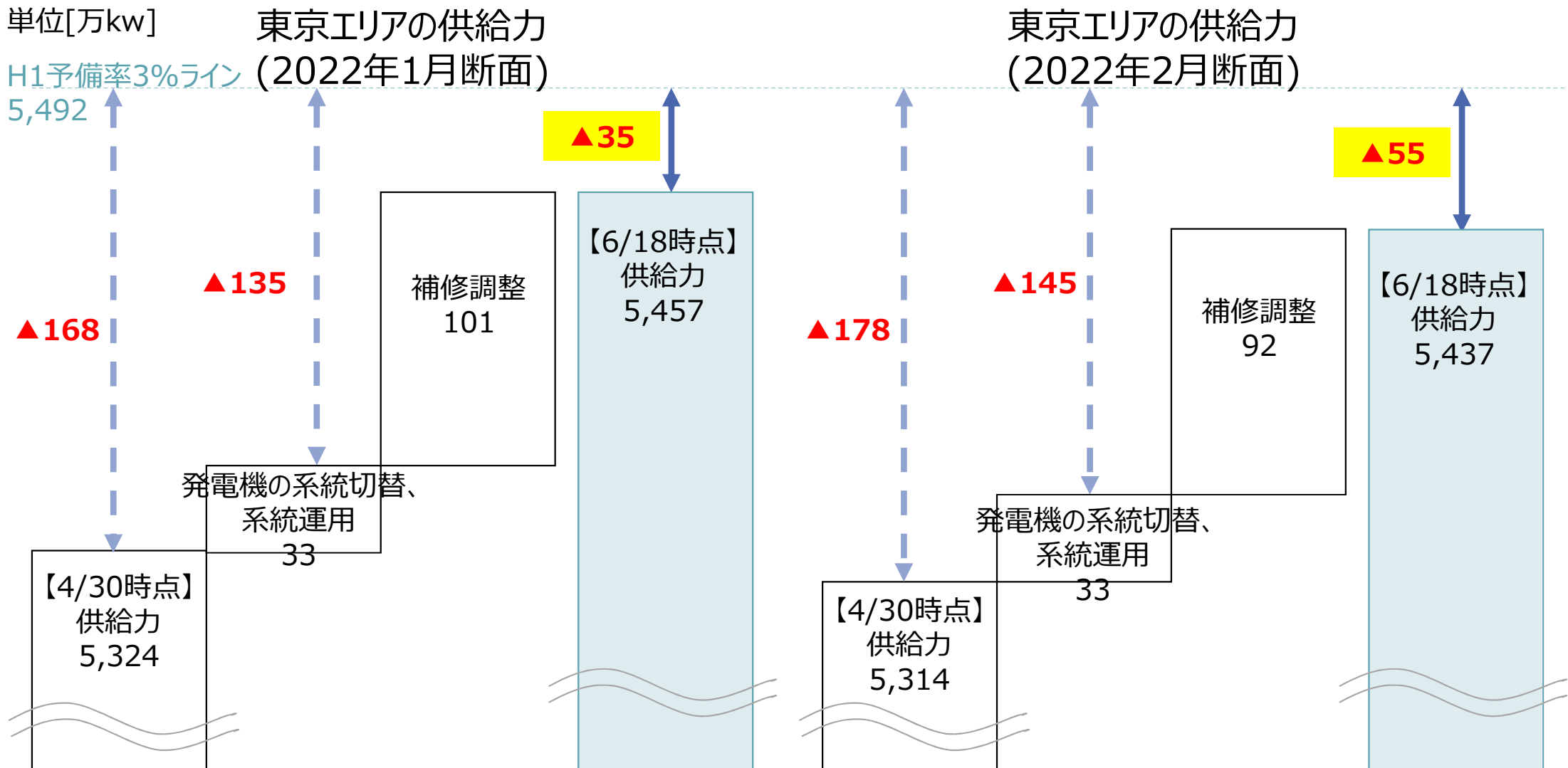
2021年度冬季の供給力確保に係る対応について

2021年6月18日

調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 事務局

追加的な供給力確保の状況 発電所補修時期の調整

- 本機関では、継続的に、発電事業者と発電所の補修時期調整を継続してきた。
- 各発電事業者において、補修工事の請負先など関係各所との調整を継続いただいたことで、需給ギャップが縮小されている。



※供給力計上においては計画外停止率▲2.6%を控除

供給力確保の方向性について

- 6月15日の電力・ガス基本政策小委員会において、電源、DRともに調達の対象とすること、入札価格に関する規律については電力・ガス取引監視等委員会において検討する方向性が示された。
- **公募調達量（募集の規模）については、至近の補修調整を反映した需給ギャップ（1月:▲35万kW、2月:▲55万kW）とし、具体的な手続きや要件については東京電力PGにて検討する。**
- なお、今後の検討においては、東京電力PG、国、本機関とで連携し、最も合理的な方法で検討を進めていく。

調整力公募による調達対象等

- 来年1・2月の東京電力管内の需給見通しにおいて、**地域間連系線を通じた他エリアからの電力融通を最大限行う前提**となっている。このため、他エリアからの追加的な調達は見込めず、今回、追加的に募集する供給力は、**東京電力管内に限定**される。
- 調達対象については、競争を通じた費用最小化の観点から、通常の調整力公募と同様、**過度の制約は設けず、できる限り幅広い応募を可能とすること**としつつ、**電源及びダイヤモンドリスpons（DR）**としてはどうか。
- **具体的な手続きや要件**については、通常の調整力公募と同様、公募を実施する**東京電力パワーグリッドにおいて検討の上、募集の規模について電力広域機関の確認を得ること**としてはどうか。
- また、今回は調達候補が限られており、競争が限定的となることも想定されるため、調達費用が不当に高くないよう、**入札価格等に関する規律について、電力・ガス取引監視等委員会において検討**することとしてはどうか。

<調整力公募による調達候補>

類型	規模感	具体例
①休止中の電源	数十万kW	JERA姉崎火力（60万kW）
②その他電源	数～数十万kW？	供給力としてカウントされていない自家発電等
③ダイヤモンドリスpons	最大50万kW程度	21年度向け調整力公募（電源I'）の東京エリア落選実績

第36回電力・ガス基本政策小委員会（2021.06.15）資料5

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/pdf/036_05_00.pdf

- 調整力公募のプロセスを参考とした場合、東京電力パワーグリッドでは、今後、要綱の検討、RFC（意見募集）、要綱への意見反映、募集、契約者選定と進めていくこととなる。
- ただし、2022年1月まで半年程度しかないと踏まえ、RFCの短縮など全体のスケジュールの短縮についても柔軟に対応する予定。

